

令和元年度 学校評価計画

今年度の重点目標と評価項目

七尾市立和倉小学校

1 全教職員が共通の目標に向かって協働する学校づくり

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価
組織的な学校運営	①学校経営評価計画を基に、PDCAサイクルによる工夫・改善	1	【努力指標】 校長ビジョンの具現化に向けて、中・短期的評価を実施しながら、PDCAサイクルで工夫・改善している	教員アンケート A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	教員アンケート 100%	7月・12月・2月	○学期末に児童・保護者・教職員アンケート・校務部会での検証から、評価し改善している。	A
	②学校経営会議及び主任会による喫緊の課題の把握と迅速な対応	2	【努力指標】 経営会議・主任会で出された課題への手立てを全職員と共通理解して取り組んでいる	学校経営会議・主任会・各種委員会等 A: 計画的に実施している95% B: 実施している90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	教員アンケート 100%	7月・12月・2月	▲実施はしてきたが、会議や出張、行事等の都合で、決まった日時に開催できなかった。行事予定等の見直しをもち、開催日時を設定していく。	A
	③報道相を密にした「チーム和倉」の構築	3	【成果指標】 一人で問題を抱えず小さなことでも報告・連絡・相談を行っている	教員アンケート A: 十分行っている95% B: 行っている90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	教員アンケート 100%	7月・12月・2月	○各教員・各部会の報道相が徹底している。	A
教職員の資質・能力の向上	①リーダーの役割と責任の明確化	4	【成果指標】 主任をリーダーとして校務部会を計画的に開催し、チームごとに課題からの改善策を出している	校務部会 A: 昨年度の反省点をもとに課題を明確にし改善策を出している B: 会の前に提案の準備ができていない C: 昨年度の課題が把握されないまま提案している D: 前例踏襲を行っている	主任が中心となつて校務部会を確実に開催し、昨年度の振り返りをもとに話し合うことができていた。	7月・12月・2月	○それぞれの部会で、提案にあたっての課題を整理し、主任会につなげている。	A
	②若プロ・OJTの推進	5	【成果指標】 計画的に若プロを実践することが、教職員の資質・能力の向上に役立っている	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート 92%	7月・12月・2月	○全員が受講者でもあり、また講師でもあることで活性化されている。 ▲行事や各組の精選と見直しを持ったスケジュール管理に努める。	A
	④危機管理とサービスの遵守の徹底	6	【成果指標】 公務員としての立場を理解し、危機管理と法令遵守の徹底のための自己研鑽の場を設定している	校内研修・職員会議・終礼 A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	校内研修1回・職員会議2回・終礼6回	7月・12月・2月	▲短時間で研修は行っているが、若手教員へのしっかりした研修が必要。	A
働き方改革の取組	①部会や各種会議の効率化	7	【成果指標】 見通しを持って会議の準備を行い、会議開始・終了時間のめやすを示し、効率的な提案に努めている	校務部会・主任会・職員会議 A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	提案時間を資料に明記し、時間内に会議ができた。	7月・12月・2月	○適切な時刻に開催し、終了してきている。 ▲提案文書の原案作成の十分な時間確保	A
	②業務内容の平準化	8	【成果指標】 業務内容を精選するとともに、繁忙期の業務負担への改善策を示している	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート 77%	7月・12月・2月	○研究副主任の連携で研究主任の業務を分担できている。 ▲訪問・要請訪問のときは、授業者や研究主任に業務が偏る。指導案検討・模擬授業の時間短縮	C
	③定時退校日(月2回)退校目標時刻(19:30)の設定	9	【成果指標】 定時退校日・帰校時間目標を示し、達成できているかどうか毎日に把握し、達成できない職員の原因と改善策を示している	勤務時間報告 A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	時間外平均 4月4.3、1時間 5月4.7、4時間 6月4.8、7時間	毎月	▲退校時刻の遅くなる職員への意識づけ。19:30を超える業務の洗い出し	B

2 確かな学力を身に付け、意欲的に学び合う児童の育成

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価
学力向上ロードマップの推進	①学力調査等調査結果に基づいた検証	10	【成果指標】 自校採点後改善点を示し、和倉検定・わくたまチャレンジ問題・児童のノート・作品等で検証を行っている	和倉検定・わくたまチャレンジ問題・国語成果物 A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	○和倉検定 ○わくたま ○国語成果物	7月・12月・2月	▲成果物の検証をさらに深めていく必要がある。成果物を作成する単元をあらかじめ決めておき、行事予定に入れ込む。	B
	②学力向上ロードマップを活用した学力向上	11	【努力指標】 学力向上ロードマップを可視化し、進捗状況を把握しながら改善を行っている	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート 80%	7月・12月・2月	○色分けして、次につながるように可視化している。 ▲機能が不十分。役割の再認識と共通理解が必要	B
	③全教職員参加による意図的・計画的な放課後補充学習	12	【成果指標】 学力向上タイムスケジュールをもとに、全教職員で計画的に取り組んでいる	和倉検定結果 合格者割合 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	国・算 54% 国語 67% 算数 77%	7月・12月・2月	○校外でも参加し、全職員で取り組んでいる。▲帯タイムの内容について検討すべき	C
	④全教職員共通実践の推進	13	【成果指標】 研究推進チームを中心に共通実践に取り組んでいる	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート 100%	7月・12月・2月	○方向づくりの期間であり、大まかな方向付けができた。▲「聞く」姿勢の徹底が甘かった。	A
	⑤学習習慣の基礎づくりの推進	14	【努力指標】 学習の構え8項目の徹底・毎月の「読書パフォーマンス」や「よい自学の日」の取組に取り組んでいる	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート 90%	7月・12月・2月	▲よい自学の中身の精選が必要。▲検証が弱い。Doチームでの書く取組ごとの簡単な検証を行う。	C
	⑥学習評価・授業評価の推進	15	【成果指標】 授業に意図的に自己評価・相互評価・教師評価の場を設定している	研究授業 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	○自己評価: ミニチェック ▲相互評価: ふり返りの確保 ▲教師評価: 場面の工夫	随時	▲継続することが大切である。毎時間することは難しい。 ▲コアな部分で取り組みをしたほうがよい。	C
教職員の授業力の向上	①計画的な校内研修や要請訪問による学校研究の推進	16	【成果指標】 指導案検討・模擬授業・研究授業・整理会を実施し、次の授業者へ改善点を明確にしている	研究だより A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期: 3年・6年	随時	○改善点を明確に示し、次の研究授業を行っている。	A
	②わかる授業の推進～授業が児童と向き合える一番の場～	17	【成果指標】 授業がよくわかると感じている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート: 82% 児童アンケート: 91%	7月・12月	▲個人差がある。個への支援を工夫する必要がある。	B
	③付けた力を明確にした学びの実感が持てる授業実践	18	【成果指標】 学力調査の分析から明確になった「つけた力」を意識した授業をしている	研究授業整理会 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	研究授業の参観シートにねらいに達成できたかを明記	随時	○特に国語科を中心に協議している。▲相互参観で他教科へ広げる取組を行う。	A
	④「相互授業参観」による授業改善	19	【成果指標】 参観シートをもとに終礼で全教職員で改善点を出し合い、授業改善に役立っている	相互参観振り返り実施 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	相互参観後振り返りはシートの提出のみであった。	7月・12月・2月	○1時間すべてでなく導入・学び合い・活用と部分的で参観しやすかった。 ▲2学期は早い時期に行う。	C
	⑤ICT機器の効果的活用	20	【成果指標】 ICT研修会やICTサポートの有効的な活用を授業者に提案し、ICTの活用を進めている	研究授業でのICT活用 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	6/10 3年 無 7/8 6年 有 A訪問50%	随時	○1学期に2～3回、各クラスでICTサポートの授業を行うことができた。 ▲プログラミング教育の計画的な実行が不十分であった。	C

3 自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	結果(○)成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価
生徒指導の充実	①生徒指導の3つの視点を活かした居場所づくりと絆づくり	21	【成果指標】 学校は楽しいと感じている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート90% 児童アンケート93%	7月・12月・2月	▲研究とからめて授業でも活かして行きたい。	A
	②児童会及び縦割り班活動や地域とのふれあい活動の実践	22	【成果指標】 自ら進んで縦割り班活動や地域とのふれあい活動に参加している	児童アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	児童アンケート90%	7月・12月・2月	○スプリング祭り、運動会で、縦割り班活動が6年生が中心となってできた。 ▲地域とのふれあい活動は2学期実施したい。	A
	③「おもいやり挨拶」の定着	23	【成果指標】 毎月の挨拶運動に参加している	挨拶運動参加率 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	挨拶運動参加率92%	毎月	○1年生もできるようになった。 ▲止まっておじぎすの徹底。個人で差がある。代表委員がラインを引いて挨拶運動する。	A
	④いじめ・不登校の未然防止とチームによる早期発見・対応	24	【努力指標】 いじめアンケート・面談の実施後、気になる児童を共有しチームで対応している	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート100%	7月・12月・2月	○児童理解の会で気になる児童の共通理解ができています。	A
心の教育の充実	①自己有用感・自己肯定感を持たせる場面の設定	25	【成果指標】 自分は学校や放ち・家族のために役に立つことをしている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート87% 児童アンケート92%	7月・12月・2月	○ありがとうの木で紹介した。今日のナイスで認め合えた。 ▲ありがとうの木が一部の児童だけである。全校の名前が挙がる工夫	B
	②地域学習や施設訪問などを通じた郷土愛・思いやり行動の育成	26	【努力指標】 地域や地域の人たちを大切にしたいという気持ちが高まってきている	児童アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	児童アンケート91%	7月・12月・2月	○3年: 地域調べ 4年: こども園 5年: 田んぼ、高齢者交流	A
	③無言清掃で考える力と見つける力の育成	27	【努力指標】 児童が自ら工夫して無言清掃に取り組んでいる	教師アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート91%	7月・12月	○昨年度と比較するとよくなっている。 ▲見えないところ(体育館やトイレ)などで無言が徹底できていない。見つけ掃除が不十分である。	A

4 家庭・地域から信頼される学校づくり

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価
健康の保持増進	①「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の推進と定着	28	【努力目標】 毎日、早寝早起き朝ごはんに努めている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート81% 児童アンケート88%	7月・12月・2月	○朝の会で、確認している学級が多く実態把握ができています。 ▲できていない子が固定化している。あゆみ選しの場などを利用して保護者に学校での現状を伝え協力を依頼する。	B
	②体力アップ1校1プランやスポチャレいしかわへの積極的な参画と実践	29	【成果指標】 計画的に体育の授業にスポチャレいしかわを取り入れている	スポチャレ実践の学年 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	全学年実施	7月・12月・2月	▲1学期は行事的にきつい。年間継続的でなく、時期を決めて集中的に行う。	A
安全管理	①防災教育・避難訓練等の計画的実施	30	【努力目標】 行事や学習で防災教育を実施している	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート100%	7月・12月・2月	○計画的に行うことができた。 ▲職員会議の提案文書は目を通しているが、危機管理マニュアルで確認していない。	A
地域との連携	①地域資源の活用	31	【努力指標】 教科や行事等において、ゲストティーチャーなど地域の人材を活用している	学期ごとにゲストティーチャーを活用した実践の回数 A: 5回以上 B: 4~3回 C: 2~1回 D: 0回	全学年実施	7月・12月・2月	○学校行事や各学級の学習に効果的に活用できている。 ▲昨年度の道德で活用した地域資源の引継が不十分だった。	A
	②保護者・地域の意見を生かした学校運営	32	【成果指標】 学校評価からの改善点を保護者・地域に知らせている	お便り・HP・学校説明会の実施 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満		11月・2月	9月の学校便りで知らせる	
学校環境の整備	①適切な修理・営繕と点検業者との連絡	33	【成果指標】 安全点検の結果から修理・営繕の連絡を迅速に行っている	安全点検結果 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	毎月の点検実施	毎月	○修理箇所を市教委へ報告し、対応している。	A
計画的な予算執行	①短期・中期での予算執行の可視化	34	【成果指標】 予算の執行割合を可視化し、職員に示している	職員会議での提案 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	コピー回数を2度提案	随時	▲コピー以外でも現在の執行状況を可視化する必要がある。	B
	②適切な予算執行のための職員への意識化	35	【努力指標】 予算の適切な執行を意識し、紙の無駄使いやカラーコピーの精選に努めている	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート75%	7月・12月・2月	▲カラーコピーが多く、必要かどうか見極めて使用する必要がある。長時間掲示する際のみカラーとするなど、約束を決める。	C